

第1回 豊川市公共施設適正配置計画策定委員会 議事録

日時：平成26年7月3日（木）

午後2時から

場所：豊川市役所 委員会室（本庁舎3階）

1 開会

出席 委員 10名、事務局（市長含め）9名、傍聴 3名

2 本策定委員会について

事務局	設置要綱により策定委員会について説明。 委員及び事務局の紹介など。
-----	--------------------------------------

3 議事

（1）豊川市公共施設適正配置計画策定業務の概要及び必要性について

事務局	資料2・3の説明。
委員長	資料2は適正配置計画策定の業務概要、資料3は必要性として、分けて説明されている。 このままいくと人口は減、財政は横ばい、老朽化はいや応なく進んでいく。平成41年から52年のピークの前に手を打つ必要が出てくる。今後の保全のあり方、マネジメントの必要性の基本的な考え方がまとめられているが、中心の柱になるのは、保有総量の削減と計画的な維持保全による長寿命化である。
委員	今の説明を聞いたら絶対に必要だということがわかる。お金の問題と建物を集約する方策の話がある。まずお金の問題。事前に先を見越して、市役所の各課においてお金を回すことも必要である。 あと統廃合の話は、利用率で決めるか、狙って学校区で絞っていくか、決めていかないと取られる方には抵抗があり、利益がある方はそっちへ進めたいと思うし、とても難しい。
事務局	今は、昔あった体育施設、福祉施設、社会福祉施設のそれぞれの基金を一緒にして公共施設整備基金として一本化している。今年25年度末で16億円ほど貯めているが、それだけで十分足りる話ではない。今後ファシリティマネジメント計画ができて目標値もできてくるので、そこを視野にして既にそうい

	う体制に入っている。
委員長	利用率については、後の校区別のところで説明があると思う。
委員	民間のプロジェクトには修繕積立金があるが、そういう制度があるという話をしてもなかなかできない。基金が16億円あっても市内の建物全部を改修するには足りないのであれば、修繕積立金制度が可能なのか聞きたい。
事務局	大きな修繕には公共施設整備基金を充てていきたい。 今の財政調整基金が80億円ほどあり、ファシリティの事業費がはっきりわかってくれば、もっと公共施設整備基金に積んでいくことも財政側と調整していくことになる。
委員	コスト面では43%の削減、面積では3割の削減と数が出ている。当然、統廃合を前提とするほかに、民間委託や民間への移譲、民間への売却という方針も含まれているのか。
事務局	これはライフサイクルコストというもので、建物の寿命を60年に見立て30年経った時点で大規模改修、60年後に建替えるという中で金額を積算した。それに対して、今現在ハードに掛けているコストと比較して、今掛けられる金額を将来に向かって線を引いたものである。
事務局	例えば、合併によって重複した施設が多ければ、廃止できるものは廃止し、行政財産から普通財産という形で一般に売却できる形をとることも1つの視点である。転用ということで重複している施設を地区に足りない施設に切り替えることも可能かと思う。古いものであれば取り壊して総量を下げること、普通財産として売却するというのも考え方の1つであり、それらを加味して目標にしたい。
委員長	個々の施設をどうしていくかという問題を確定していく中で、売却や多機能化することなどがある程度決まっていけないと資金的な運用はわからず、今の時点での費用をベースに計算することしかできない。
委員	ここに書かれていることは数字的にはごもっともで、どの自治体でも目標設定までの流れはこういうストーリーで考えざるを得ない。ここに出ている方針の中では、豊川市の特徴や豊川市がどうであるかということがいま一つわからない。どの自治体でもこういう状況が起こっている中で、豊川市の総合政策なり、マスタープランの施策、それぞれの地域のまちづくりの方向など、豊川が向かう方向性と施設のマネジメントの基本的な考え方がリンクしなけ

	<p>ればいけない。基本的な考え方が一般論になりすぎている感があり、豊川ではどうするのかという話にしなければいけない。</p> <p>もう1点は、削減目標を50年間で30%というのは、50年後に30%減っているのでは数値的には合わない。50年の最初の方に30%を減らさないといけないという話で数字ができています。そのあたりがどういうふうに積み上がっているのか示していただけると良い。</p>
事務局	<p>50年の間に30%を減らす息の長い計画である。今年度の公共施設適正配置計画の中には実施プラン的な考えも持っており、今後10年間の中で集中的・重点的に適正配置の方向性を出し、どの程度の削減が可能か、実施プラン的なものも含めて検討していく。</p>
委員長	<p>豊川市の方向性の問題はかなり難しい問題で、なかなか簡単に答えられるような問題ではない。今後話が進んでいく中で、どういうふうに年計算したのか、あるいはまた、どういうふうに関連づけていくのか、意見を先生方から頂戴しながら議論を進めていけたら良いと思う。</p>
事務局	<p>後ほど各中学校区別の資料の中で都市計画マスタープランの方向性を示しながら、公共施設とどうやってリンクさせるかという議論がいただける形になっている。それから、先ほど市長が申し上げたように、今、総合計画を作っており、総合計画のたたき台ができてきたらリンクさせながらまちづくりにつなげて、市民に開示しながら議論をして、まちづくりにつなげていきたい。</p>
委員長	<p>それでは議事の2に移りたい。</p>

(2) 豊川市公共施設の配置状況について

・施設用途別、中学校区別、課題の整理

事務局	<p>資料4・5の説明。</p>
委員	<p>校区別の状況はわかるが、まとめると全体としてはどんなことが言えるのか。削減目標は校区別の分析とどのようにリンクするのか。</p>
事務局	<p>削減目標を50年で30%としたが、校区別に細かく精査し積み上げたものではなく、今後の方向性のために、校区別の状況を中心に、まちづくりという視点で検討いただければという意味合いで出させていただいた。</p>
委員	<p>校区ごとの特徴を簡単にまとめるとどういうことが言えるか。</p>
事務局	<p>豊川市には10校区あり、このうち音羽、一宮、小坂井、御津の4校区は合</p>

	<p>併した校区で、まちづくりの考え方の中でそれぞれ行政の拠点というもの持っていた。そういう特徴がある。旧豊川市の中で施設のばらつきの状況や、人口も増えているところと増えていないところがあり、そのような中で施設が配置されている。</p>
委員	<p>これからの資料にあると思うが、旧自治体の地区でどのような方針を出し調整されるのか関心があったのでお聞きした。</p>
委員	<p>音羽や小坂井などは別にして、豊川市には昔中学校が4つあったが2つ増えて6区になり、音羽などが増えて10区という形である。2つ中学校が増えたものを逆に元の数に戻すことなど、人口構成の問題もあるが統廃合の問題として全体を見据えた検討が必要ではないか。</p>
事務局	<p>資料6の説明。</p>
委員長	<p>資料が多くて情報量も多くてわかりにくいかもしれないが、ご意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>これだけ資料が膨大であるので、これくらいの説明で理解するのが恐らく難しい。これは、今、委員会で集まって一緒に資料を見ながら説明を聞いてもこういう状況であるので、一般市民にとってはもっとわからないという状況が起こってくる。先ほどまとめて言うとか何かとおっしゃったが、そういうことが必要だと思う。</p> <p>豊川ではどういうことが起こっているのか、それが個別の施設の状況はもちろん、中学校区別の状況でも、わかるような基本方針や課題の設定をしていかないと、委員ももちろん、委員の向こうにいる市民全般にはほとんど届かない。アンケートで50%、60%の賛成をいただいているから良いというわけにはいかない。実際は総論賛成、各論反対になるに決まっている、総論で50%しか賛成がないものが、各論でそのままうまくいくとは思えない。もう1回噛み砕かないと、この後に大規模改修や建替えをしていく施設候補が出てくると思うが、どうしてそこにいくのかはなかなか理解しづらい。</p> <p>どういうふうに整理していくのか議論しないといけないが、全体像がない。全体の中で一番困っていることは何か、大きな問題は、地区別に見れば旧町の問題と豊川市のもともとの問題がどうなっているのか。一方で旧町は虐げられていると思っている方が多いと思う。豊川市のルールに従って旧町はこのようになるということが、そこが大きな問題で、それに対してちゃんと答</p>

	<p>えられる方針が見えるかどうかということである。そういうところが無いと皆さんに理解していただくのは難しい。</p> <p>大きなところを掴む、考え方を一言で示すことが極めて大事である。</p>
委員	<p>今日は豊川市の大雑把な説明ではないかと思う。削減をしていかなければならないことは市民の皆さんも 52%は理解しているので、今日の説明はあまりにも膨大過ぎて混乱するが、大体の豊川市の施設配置は綺麗にできている、これから女性が働く時代を考えると保育園の施設が少ない、そういう感じがする。</p> <p>今日は大雑把な説明として、豊川市がこういう問題に直面している、掘り下げていったら各中学校区にはこのような問題が出てきている。どこを削減するかというと地域間でそれぞれ出てくる。合併した4町は、なぜ私のところを削減するのか、そういう問題は確実に出てくるので、この委員を引き受けたときは大変な委員を引き受けてしまったと、そういう考えである。この委員会の責任は非常に重大だと思っている。</p> <p>これだけ膨大な資料をつくり、これだけのことを綿密にやってくれさせたことには頭が下がる。FMの方が何年もかかって作っていただいたものだと思う。欲を言えば、資料にページ数を入れていただきたい。</p>
委員長	<p>今日の委員会の目的は、次回にルール、方針をある程度決めて配置計画を作っていくための材料を皆さんにいろんな意見を出していただくこと。それによって配置の状況、それぞれの校區別、施設別に見た場合どういう課題を抱えているのかということ、情報が多過ぎて理解するのが大変ということだが、資料でお示ししてある程度、理解していただくことである。</p> <p>これから、既に耐用年数が迫っている施設、あるいは利用率は調査済みで、どこをどうやって多機能化し、複合化し、統廃合するということはおおよその検討はついていると思うが、それを皆さんの意見を前提に、この後、具体的な計画として決めていくということだと思う。</p>
委員	<p>18万都市にとって平均的な公共施設量のガイドラインというかベンチマークがあって、それに対して豊川市はこういう状況であり、特殊な事情があるから多いという説明があると理解しやすい。</p>
委員長	<p>恐らく合併という問題が非常に関連してくる。合併した地域が幾つあるかによってもかなり違う。ほかの都市で標準的というと、どこが標準的なのか</p>

	なかなか難しいが、そういう資料はあるか。
事務局	豊川市と他市の状況を比べた資料を用意させていただく。
委員	田原市、新城市、西尾市に関わっており、いずれも合併した市だが、4市の中で見ると豊川市が一人当たり公共施設面積が一番少ない。新城や田原や西尾の方が、豊川より合併して公共施設がだぶついている状況。市によって特性があり、田原市などは南北に長く人口密度が低いので大きくならざるを得ない。豊川市の客観的な状況を掴むことは必要。
委員	豊田市のまちづくり交付金では、市域全般に開発されている良いところがある。公共施設でもお金の使い方を絡めて見ていけると良い。
事務局	次回の会議資料で出させていただく。
委員	旧御津町の合併された側だが、中学校区別の説明は、今後進めていくにあたって地域分けはいらぬのではないか。校区別の人口もボリュームが違うので、施設用途別に考えなくてはいけない。合併した地区を識別するような中学校区別で施設を考えていくことは、かえって進めにくいのではないかと。
事務局	資料は、用途別と中学校区別の2つに分けて作成している。まちづくりの方向性とどのように絡んでくるかということで、都市計画マスタープランが中学校区別になっているため、そういう形にしている。 特に、大きな文化施設や体育施設は、中学校区ごとに区切っても中学校に1つできない施設があり、分けるのは無意味なことである。ただ、コミュニティー施設については、中学校区単位でどのくらい足りているのかどうかということの一つの目安になる。
委員	西尾市の事例で財政規模にふさわしいサービスの量とあった。ダイエットして将来の姿を描き、福祉や観光に肉付けしていくとか、そういったイメージでお金にあった姿が資料としてあると良い。
委員長	議事の3に移りたい。

(3) 今後10年間の建替え及び大規模改修を要する施設候補

事務局	資料7の説明。
委員	表の中に施設名が赤字と黒字は何が違うのか。
事務局	赤字は、資料の中でコメントをしている施設、課題がある施設を示している。

委員	これは改修時期の時間だけで整理しているのか。
事務局	建築年次だけで整理している。 今後の耐久度調査の候補として調査をしていく。
委員	60年でも健全なものも不健全なものもいろいろあるが。
事務局	そういったところを今年の中で調査していく。
委員長	今後10年以内の建替え候補については今年調査をするということか。
事務局	資料の中で黒字、赤字ともに波線のアンダーラインがついている施設を、事務局では調査対象としている。
委員長	波線が引かれていない施設は、すぐに調査はしないということか。
事務局	中性化試験等の調査はしない。
委員	60年という区切りは良いが、最近では環境技術が進み設備では省エネタイプが進んでいる。設備のシステムがきちんと機能するためには、建物が機能しないといけない。築20年を過ぎた建物は性能が悪いので、省エネからみると効率が悪い。60年を待たずに建替えた方が良いかもしれない。その方が得する場合もあるので、そういう視点もほしい。無駄な改修はやらないことも含めて考えてほしい。
事務局	大規模改修の候補の30年以上経ったものは、建替えの候補には入ってこないが、設備面の老朽化の観点からも検討させていただきたい。
委員	調査をするのが、朱書きのものが今年行うということか。
事務局	波線のアンダーラインのものである。
委員	25年以前でこれだけ候補があがっているということか。 老朽化が見える部分もあると思うが、調査はここに挙がっているものだけなのか、必要性があれば他にも調査をしていくのか。
事務局	一昨年に作成した白書の中ですべての公共施設の老朽度を調べている。ここでの調査は、鉄筋コンクリートの素材の成分を抜き出す詳細な調査を予定しており、建物の構造などで調査対象を選定させていただいている。
委員長	議事の4番目について、事務局から説明をお願いしたい。

(4) 先進事例について

事務局	資料8の説明。
委員	旧鳳来町の取組事例の紹介。

委員	西尾市の取組事例の紹介。
委員	この委員会の回数も何度もないし、予算も時間も限られている中で、委員を引き受けたときに大変だと感じた。どういう方向に向かっているのか、大きなところで見えていないと、限られたお金と時間の中で、文句が1つも出ない結論はないので、誠意を持って考えたことが伝わるような貴重な時間になると良いと思う。
委員長	将来の豊川市がどうあるべきか、どんなイメージを持って収斂していくのか、市民も含めてイメージできるような説明、マンガを作成することも考えているようだが、将来的にどういう豊川市にしていくのかを前面に打ち出しても良い。今後、この委員会で皆さんの意見をお聞きし反映させていきたい。
委員	財政負担を減少することが大きな目標なので、そのための方策として、施設を民営化した場合に目標値がどうなるか、そういう資料もほしい。
委員長	よければ、発言し足りない方がいるかもしれないので、文書で事務局に提出することも可能にさせていただけるとありがたい。 ありがとうございます。以上をもって議事を終わらせていただきたい。

7 その他

事務局	次回は8月7日（木）午後2時からこの場所で予定している。 最初に計画の策定業務の概要として、現段階で考えられる策定フローを示させていただいたが、意見を伺いながら作っていきたいのでよろしく願いしたい。
委員長	それでは閉会する。

8 閉会